

## ビゼーの歌曲

— 5 曲、作品 21 より —

下 山 進

### Mélodie de Bizet — 5 pièces d'Op. 21 —

Susumu SHIMOYAMA

#### I. はじめに

ビゼー (Georges Bizet、1838-75年) の生涯は37年で、彼の作曲活動の期間は1850年から1874年であった。その間の作品は「テノール用のヴォカリーズ、ハ長調」(*Vocalise pour voix de tenor en ut majeur*、1850年作曲) から、傑作となるドーデ (A. Daudet、1840-97年) の戯曲による管弦楽組曲「アルルの女」(*Suite, l'Alrésienne*、1872年作曲) やメイラック (H. Meilahac、1831-97年) とアレヴィ (L. Halévy、1834-1908年) の台本によるオペラ・コミック「カルメン」(*Opéra - Comique, Carmen*、1873-74年作曲) をはじめ多くを残した。

一方ビゼーは声楽作品の分野において、上記の「テノール用のヴォカリーズ、ハ長調」からゴーチエ (Th. Gautier、1811-72年) の詩による二重唱「逃走」(*Duo. La Fuite*、1870年作曲) を残した。さらに彼は歌曲 (メロディー、*Mélodie*、歌とピアノによる) の領域で、ロラン (O. L. Rolland) の詩による「可愛いマルガリーテ」(*Petite Marguerite*、1854年作曲) からギユ (P. Gille、1831-1901年) の詩による「パステル画」(*Pastel*、1886年作曲) まで、「作品21」として20曲、「遺作」として16曲および「6つのメロディー」*Six mélodies* として6曲の合計42曲を残した<sup>1</sup> (なお4曲は未出版である<sup>2</sup>)。

近代フランス歌曲は詩が重要であるが、上記のメロディー42曲に用いられた詩人は次のとおりで、作品の多い順に列挙すると、ユゴー (Victor Hugo、1802-85年) の7詩以下、フェリエ (Poul Ferrier) の5詩、ラマルティエヌ (Alphonse de Lamartine、1790-1869年)、マンデス (Catulle Mandès、1841-1909年) およびギユの各3詩、ミルヴォア (Charles Hubert Millevoye、1782-1816年)、ロランおよびミュッセ (Alfred de Musset、1804-80年) の各2詩、ゴーチエ、パイユロン (Édouard Pailleron、1834-99年)、ルニャール (Jean François Regnard、1655-1709年) などである。

本論では、ビゼーの歌曲 (作品21-第1~20番) より5曲、1. 「古歌」*Vieille chanson*、2.

「別れを告げるアラブの女主人」*Adieux de l'hôtesse arabe*、3. 「てんとう虫」*La coccinelle*、4. 「田園詩」*Pastorale*、5. 「不在」*Absence* をとりあげ、作品の特徴となるリズム、メロディーとハーモニーを主に分析し、さらにビゼーがこれら5曲に用いた詩作品をどのように音楽と融合させ、近代フランス歌曲 (*mélodie française*) としたかを考察する。あわせて歌唱表現における指導留意点についても述べる。

## II. 作品21番のうち5曲についての作品分析

### 1. 「古歌」*Vieille chanson*、1865年作曲?

テキストはフランス革命期の詩人、C. H. ミルヴォアの作品が用いられている。彼の詩風は古典主義ではあるが哀愁と繊細さ、音楽性と自然への愛にロマン主義の萌芽が見られる。<sup>3</sup> さらに翌年ビゼーは彼の詩を用い、「愛のぼら」*La rose d'amour* を作曲している。

詩の構成は3詩節、1詩節は8詩句、1詩句は軽快なリズムを持つ8音節 *Octosyllabes*、脚韻は男性韻 *m* と女性韻 *f* との交互韻 *mfmfmfmf* である。

#### 詩例1

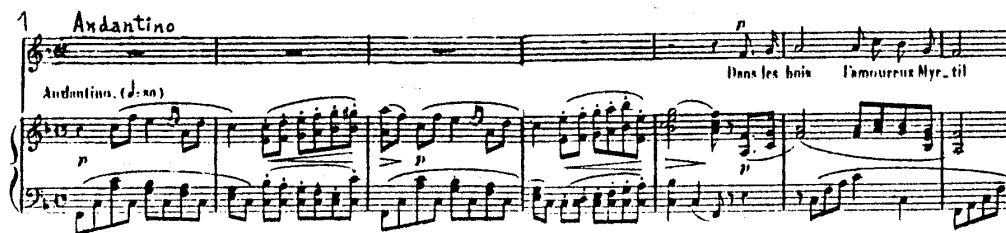
Dans les bois l'amoureux Myrtil	森で恋人ミルチルは、
Avait pris Fauvette légère ;	可愛い紅ひわを捕えた。
"Aimable oiseau, lui disait-il,	「可愛い小鳥よ」と彼は言った。
Je te destine à ma bergère.	おまえこそ恋人への贈り物だ。
Pour prix du don que j'aurai fait,	この贈り物をしたら褒美を貰えるだろう!
Que de baisers! ... Si ma Lucette	どれだけの口づけを…、もしリュセツが
M'en donne deux pour un bouquet,	花束のお礼に二つくれるなら
J'en aurai dix pour la Fauvette."	十も欲しい、この紅ひわのお礼に。

#### 以下省略

曲の構成は、71小節、速度 *Andantino*、ヘ長調、4/4拍子、第1部A（第1～25小節、第1詩節）—第2部B（第26～52小節、第2詩節および第3詩節第17・18詩句）—第3部C（第53～71小節、第3詩節第19～24詩句）の3部形式である。ビゼーは中世の吟遊詩人から継承されているシャンソン (*Chanson*) を踏まえ、見事に純朴で牧歌的な恋愛歌として再現している。なお曲はM. カルヴァロ夫人に献呈されている。

第1部Aの冒頭部はヘ長調の *Fa*（主和音 *I*）と *Do<sub>7</sub>*（属七の和音 *V<sub>7</sub>*）とを連結反復し *Do<sub>7</sub>* に半終止する（譜例1）。第1・2詩句は安定した主属和音を連結させ、第3詩句は *Do#dim<sub>7</sub>*—*Rém*（和音 *VI*）と調性を弱めて偽終止させる。

譜例 1



第4詩句は  $R\acute{e}b$  (準固有和音VI) -  $Do^2$  と連結させ、第5詩句は  $Sol_7$  (準固有和音II) を経て  $Do$  (属調、ハ長調) に一時転調させる。第6・7詩句は原調に戻り、第8詩句は  $Fa_7 - Si\flat$  (下屬調、S進行、 $V_7 - I/IV$ ) に一時転調後、さらに第8詩句を反復させ  $Solm^1 - Mim_{7.5} - Fa\flat - Si\flat^1$ 、 $Solm - Do_7$  と連結させ原調に戻す。

第2部Bは第1部5小節を反復後、第2詩節第1～4詩句は  $Si\flat - Fa_7 - Si\flat$  と下屬調に転調させ、さらに  $Sol\sharp dim_7$  を経て  $R\acute{e}^1 - La_7 - R\acute{e}$  (準固有和音VIの調) に1度落ち着かせる。しかし同詩節第5・6詩句「ああ!、悲しみに沈んだ羊飼は言う。さようなら、リュセットの口づけよ!」*Ah! dit le berger désolé. Adieu les baisers de Lucette* は低音部の  $do$  (原調の層音) 上に  $Fa\sharp dim_7$  を奏し、別れの悲しみを暗示させる。さらに第3詩節第1・2詩句「ミルチルは近くの森に戻る、自分のした失敗を嘆きながら」*Myrtil retourne au bois voisin, Pleurant la perte qu'il a faite.* はピアノ部の低音に  $do$  を3小節半切れ目なく連打させ、その音上に調性を曖昧にさせる変化和音を経過的に下降連結させ悲しみを暗示させた後、 $R\acute{e}\flat / do - R\acute{e}m_{7.5} - Do$  と連絡させ半終止させる(譜例2)。

譜例 2



第3部Cは第1部の旋律および和声を装飾させ拡張変形させ反復させる。特に第3詩節第7詩句第5～11音節、「気を落とさないで、ミルチル」*Console-toi, Myrtil* は3度反復させることで強調させる。後奏は前奏を反復し終わる。

なお歌唱に際しては、変化音や装飾音符が多いがテキストは素朴で牧歌的な詩であるから、母音および子音を明瞭に発音させる。さらに第2詩節第4詩句につけられた16分音符の音程は正確に再現するよう気をつけさせる。これらの点を心がけることで伸びやかで軽快な表現を可能とさせる。

## 2. 「別れを告げるアラブの女主人」*Adieux de l'hôtesse arabe*, 1866年作曲

テキストには、V. ユゴーの作品「東方詩集」*Les Orientales*、1829年作から用いられている。<sup>4</sup>

詩の構成は4詩節、1詩節は6詩句と1押句が置かれる変則、詩句は息の長いリズムを持つ12音節 Alexandrin と8音節、脚韻は mmfmmf と押韻 m からなる変則である。

## 詩例2

Puisque rien ne t'arrête en cet heureux pays,  
Ni l'ombre du palmier, ni le jaune maïs,  
Ni le repos, ni l'abondance ;  
Ni de voir, à ta voix, battre le jeune sein  
De nos soeurs, dont, les soirs,  
le tournoyant essaim  
Couronne un coteau de sa danse ;  
Adieu, beau voyageur ! Hélas ! adieu !

Oh ! que n'es-tu de ceux  
Qui donnent pour limite  
à leurs pieds paresseux  
Leur toit de branches ou de toiles !  
Qui rêveurs sans en faire,  
écoutent les récits,  
Et souhaitent le soir  
devant leur porte assis,  
De s'en aller dans les étoiles !  
Hélas ! Adieu ! beau voyageur !

君がこの幸せな国に止まらないので、  
ヤシの木陰も、黄色のトウモロコシも、  
憩も、豊穡も、  
君に会うことも、声を聞くこともなく、妹らの  
若い心臓に脈打つことも、夕べに、  
旋回する群れもない。  
彼女の踊る丘に冠を被せよう、  
さようなら、美しい旅人よ！ああ！さようなら！

おお！なぜ君はそうしないの  
彼らの無気力な足取りを止めさせよう！

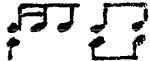
枝や布で作られた彼らの尾根！  
ああ、夢想者は何もせず、物語を聞く、

そして願う、夕べに門の前に座って、

星座に消える！  
ああ！さようなら！美しい旅人よ！

以下省略

曲の構成は、155小節、速度 Andantino melanconico、イ短調、2/4拍子、第1部A（第1～73小節、第1・2詩節）－第2部B（第74～145小節、第3・4詩節）－結尾部（第146～156小節、第4詩節第5～8詩句の反復）の2部形式である。なお曲は前曲と同様にM. カルヴァロ夫人に献呈されている。

第1部Aの冒頭は4小節、ピアノ部は民謡的なオスティナートのリズム音型  が終始 bien rythmé と指示され支配する。さらに曲の初め12小節は低音部の主音 la（保続音）上に、Lam-Sol#dim<sub>7</sub>/la-Lam-Mi<sub>7</sub>/la-Lam と連結させる。歌部の旋律は下降時に sol# を用い北アフリカ、アラブの旋法を暗示させる。（譜例3）。

## 譜例3

1 Andantino melanconico



Andantino.  
pp  
bien rythmé.

2 小節省略

4 *tempo*



Puisque rien ne t'ar. rê. te en cet heureux pa. ys.

同詩節第3詩句はピアノ部に  $Mim^1 - Fa \# dim_7 - Si_7 - Mim$  と属調を経過後、 $Mi_7 - Lam$  と連結させ原調に戻る。さらに同詩節第6詩句からは  $Mim^2 - Lam^1 - Ré_7 - Sol$  (Ⅶの調) へ経過的に転調させる。

第2詩節からは、ピアノ部に  $Si_7^2 - La^2 - Mi \# dim_7 - Fa \# m$ 、 $La_7^1 - Ré$  (準固有和音、Ⅳの調) と連結させ、歌部ともに  $mi$  から1オクターブ下の  $do \#$  へ半音下降進行させる(譜例4)。同詩節第7詩句は  $Sim - La$  (準固有和音) -  $Mi_7$  (根音省略)、 $Mi_7 - La_7 - Ré^2 - Sol \# dim_7 / la - La_7 - Ré^2 - La_7 - Sim_{7.5} - Si \flat$  (S進行、Ⅳ) と変格終止させる。その後高音に原調の属音  $mi$  を4小節奏させ、前奏3小節を反復させ第2部へつなぐ。

#### 譜例4



第2部Bは第1部を拡張し変形しながらほぼ反復させた後、結尾部は第4詩節第6詩句「忘れないで！」*Souviens-toi!* を  $Lam - Fa$  (Ⅵ) -  $Lam$  と連結反復させ、さらに歌部はメリスマ的ヴォカリーズで装飾させながら拡張し強調させる。

なお歌唱に際しては、旋法的な旋律であるので強弱の対比よりも陰影を考えながら表現させるとよい。短調とは言え、決して声が暗くならないこと。例えば第5・6詩節の16分音符順次進行あるいは長音は音程が下がらないよう気をつけさせ明確に再現させること。最後の4小節にわたる母音唱はリズムを均等にしかし柔らかな音色で歌わせること。

### 3. 「てんとう虫」*La coccinelle*, 1868年作曲

テキストには上記2同様にV. ユゴーの詩が用いられている。

詩の構成は5詩節、1詩節は4詩句、1詩句は不安定ではあるが軽妙なリズムを感じさせる奇数7音節、脚韻は  $fmmf$  と  $mffm$  の抱擁韻 *rimes embrassées* である。

#### 詩例3

Elle me dit : "Quelque chose,  
Me tourmente, "et j'aperçus  
Son cou de neige, et, dessus,  
Un petit insecte rose.

J'aurais du... mais, sage ou fou,  
A seize ans on est farouche, —  
Voir le baiser sur sa bouche  
Plus que l'insecte à son cou.

彼女は僕に言った、「何物なの、  
私を困らせるのは」、それで僕は見た  
彼女の白いうなじを、そしたら、その上に  
バラ色の小さな虫を。

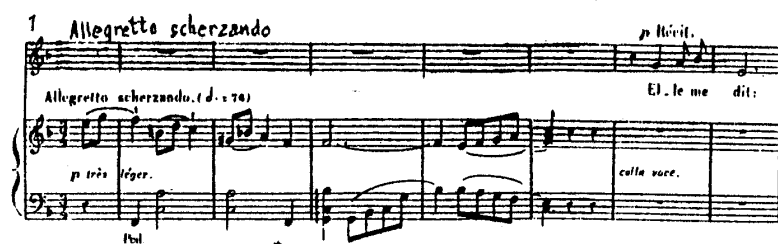
僕はすればよかった…、でも、賢いのそれとも愚かなの、  
16歳にもなれば御し難い、—  
彼女の唇に口づけを思い描く  
彼女のうなじにいる虫以上に。

以下省略

曲の構成は、202小節、速度 Allegretto scherzando、へ調子、3/4拍子、第1部A（第1～34小節、第1詩節）－第2部A'（第34～80小節、第2詩節）－第3部A''（第81～112小節、第3詩節）－第4部A'''（第113～166小節、第4詩節）－第5部B（第167～184小節、第5詩節）－結尾部B'（第184～202小節、第5詩節第4、同詩節第2、第2詩第1詩句の反復）の2部形式である。ビゼーはこの曲を含め1868年にメロディーを14作曲している。そのうちシャブリエ（A. E. Chabrier、1841－94年）やラヴェル（M. J. Ravel、1875－1937年）に継承される、フランス伝統の小動物を題材とした描写的な歌曲としてA. de ラマルティエヌの詩を用い「こうろぎ」*Le grillon*を作曲している。なお曲はF. ブシェ夫人に献呈されている。

第1部Aはピアノ部が短かくおどけたフレーズのリズム（scherzando）で軽妙に奏され始まる。歌部第1詩節は物語る（Récit.）と指示され、ピアノ部の Fa－Do<sub>7</sub>－Fa、Ré<sub>m</sub>－Lam－Fa<sup>#</sup>dim<sub>7</sub>－Sol<sub>m</sub>－Fa<sup>2</sup>－Do<sub>7</sub>－Faの連結とおどけたワルツのリズムに対話させ簡潔に歌わせる（譜例5）。

譜例5



第2部第2詩節第1・2詩句は Fa－Sol<sub>m7.5</sub>－Do<sub>7</sub>－Fa に、同詩節第3詩句は Fa－Ré<sub>m</sub>－Lam－Sol<sub>7</sub>－Do<sup>2</sup>－Ré<sub>7</sub>/sol（保続音）－Sol－Ré<sub>7</sub>－Sol（準固有和音Ⅱの調）と一時転調させ、さらに同詩節第4詩句は Do<sup>#</sup>dim<sub>7</sub>－Ré<sub>m</sub><sup>1</sup>－同<sup>1</sup>－Lam<sub>7</sub>－Do<sup>2</sup>－Sol<sub>7</sub>－Do<sup>#</sup>dim<sub>7</sub><sup>2</sup>－Sol<sub>7</sub>－Do（Ⅴの調）と連結させ歌わせる。

第3部第3詩節第1・2詩句はピアノ低音部の8分音符からなる経過音の接続部に、同詩節第3・4詩句はピアノの高音の短いフレーズを変形および低音の8分音符の分散和音 Mi<sub>7</sub>（準固有和音Ⅶ）－Lam<sup>2</sup>に歌わせる。同詩節第4詩句は反復され経過和音的に下降させ Do<sub>7</sub>で半終止させ歌わせる。

第4部は第4詩節第1・2詩句に替え第2部の34小節を反復させた後、同詩節第3・4詩句は Ré<sub>7</sub>/sol－Sol（Ⅱの調）－Do<sup>#</sup>dim<sub>7</sub>－Ré<sub>m</sub><sup>1</sup>－Lam<sup>2</sup>－Do<sup>2</sup>－Sol<sub>7</sub>－Do<sup>#</sup>dim<sub>7</sub><sup>2</sup>－Ré<sub>m</sub>/sol－Sol<sub>7</sub>－Do－同<sup>1</sup>－Fa－Do<sub>7</sub>と連結させ歌わせる。

第5部第5詩節第1詩句はピアノ部のリズムが16分音符による3連音符のアルペジオを用い、Fa－Si<sup>b</sup>－Faに（譜例6）、同詩節第2詩句は Ré<sub>m</sub>－Sol<sub>7</sub>－Do（Ⅴ）の属調に一時転調に、同詩節第3詩句は Sol<sub>m</sub><sup>1</sup>－Faに、同詩節第4詩句は Do<sub>7</sub>－Si<sup>b2</sup>－Fa上に、同詩第4詩句の反復は Do<sub>7</sub>－Ré<sub>m</sub>（Ⅵの調）に偽終止に、さらに調性を曖昧にした減七の和音 Sidim<sub>7</sub>と連結させ歌わせる。

譜例 6



結尾部はピアノ部に16分音符の3連によるアルページョを用い、第5詩節第2詩句を反復、さらにピアノ部の高音に短いフレーズを、低音に16分音符の3連によるアルページョを用い、Fa - Si<sup>b2</sup> - Fa と連結させ変格終止に同詩節同詩句を反復させ歌わせる。

なお歌唱に際しては、曲の前半は楽譜に *Récit.* と指示されているのでピアノ部のリズム *scherzando* とあわせ短いフレーズを良く聴いて軽やかな発音で対話させ、さらに後半は16分音符の3連からなるアルページョの揺れるリズムに伸びやかな表現をさせること。

#### 4. 「田園詩」 *Pastorale*、1868 年作曲

テキストには喜劇作家でもある J. F. ルニャールの詩が用いられている。<sup>5</sup>

詩の構成は4詩節、1詩節は4詩句、第1・3詩節は1詩句は奇数5音節と偶数6音節との交互音節を用い、第2詩節は第1～3詩句が7音節、同第4詩句が6音節、第4詩節は第1・4詩句が6音節、同第2詩句が8音節、同第3詩句が7音節の変則音節、脚韻は全て力強さを表わす *mmmm* である。

##### 詩例 4

Un jour de printemps,  
Tout le long d'un verger  
Colin va chantant,  
Pour ses maux soulager :

春の陽、  
葡萄畑に沿って  
コランは歌う  
不幸を紛らわせるために

“Ma bergère, laisse-moi  
La la la, rela, rela  
Ma bergère, laisse-moi  
Prendre un tendre baiser !”

「恋人よ、してください  
ラララ、レラ、レラ  
恋人よ、してください  
やさしい口づけを！」

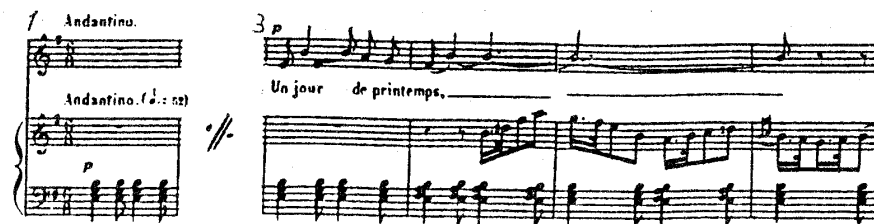
##### 以下省略

曲の構成は、68小節、速度 *Andantino*、ホ短調、6/8 拍子、第1部A（第1～34小節、第1・2詩節）－第2部A'（35～68小節、第3・4詩節）の2部形式である。民謡風なオスティナートのリズム が終始用いられパストラルを表現する。なおビゼーはこの曲を1876年に編曲し「アルルの女」の中で合唱曲として用いている。

第1部Aは主和音 *Mim* の2小節後、第1詩節は *Mim - Si<sup>7</sup>/mi - Mim*（譜例7）、第3詩句は *Do - Solaug.*、第4詩句は *Do - Lam<sup>1</sup> - Si*（第5音省略）、第5・6詩句は *La*（準固有和音IV）/ *si - Si<sup>7</sup> - Mim* と原調に戻す。第7・8詩句は *Ré # dim<sup>7</sup> - Sol # dim<sup>7</sup>* と減7の和

音を連結させ調性を曖昧にさせる。

譜例 7



第 5・8 詩句は Lam - Mim<sup>2</sup> - Si - Mi (準固有和音 I)、Si<sub>7</sub> - Do#m - Lamaj. - Si<sub>7</sub> - Mi の同主長調に一時転調の間に 3 度反復される。第 2 部への接続句は Do - Mim - Lam - Do - Fa (第 2 音を半音下降) と連結させ Si<sub>7</sub> に半終止させる。

第 2 部 B は原調の主和音 Mim の後、前奏と第 1 部とをほぼ再現させ、最終第 16 詩句「僕はそれを君にあげる」Je vais te le donner を反復後、Mi - Do#m - Mi - La - Do#m - Fa#<sub>7</sub> - Si<sub>7</sub> と連結、同主長調 Mi (準固有和音 I) に転調させ繊細に明るく終止させる (譜例 8)。

譜例 8



なお歌唱に際しては、曲の旋律がゆったりとしたシラビック様式であるので発音に注意させることと、さらに対比的な細かい刻みのリズムである付点 16 分音符と 32 分音符の組み合わせや短打音およびトリルであるので正確に軽やかに表現させること。

## 5. 「不在」 *Absence*、1872 年作曲

テキストにはロマン派から高踏派の時期に活躍した詩人、T. ゴーチエの詩が用いられている。<sup>9</sup>

詩の構成は 6 詩節、1 詩節は 4 詩句、1 詩句は 8 音節、脚韻は fmfm からなる交互韻である。

詩例 5

Reviens, reviens, ma bien-aimée ;  
Comme une fleur loin du soleil,  
La fleur de ma vie est fermée  
Loin de ton sourire vermeil !

Entre nos cœurs tant de distance !  
Tant d'espace entre nos baisers !  
Ô sort amer, Ô dure absence !  
Ô grands désirs inapaisés !

帰ってきておくれ、恋人よ ;  
太陽から離れた遠い花のよう、  
私の人生の花は萎んでしまった。  
君の赤き微笑はなんて遠いのだ !

私たちの心はなんて遠い距離があるの !  
私たちの口づけは何と空間があるの !  
ああ、運命のがさ ! ああ、悲しい不在 !  
ああ、大きな癒されない願 !

以下省略



## ビゼーの歌曲

曲の構成は、88小節、速度 Andante moderato、変ホ長調、4/4 拍子、前奏（第1～4小節）－第1部A（第5～28小節、第1・2詩節）を3度反復する有節形式である。歌部の旋律は語句のもつリズムや抑揚、意味に合わせ変形あるいは装飾させ、リズムは8分音符の3連が終始刻まれる。なお、曲はA. de ゴールドシュミット氏に献呈されている。

前奏は4小節、ホ長調の主和音  $Mi\flat - Si\flat_7 - Dom$ （和音VI）と連結させ偽終止させる。さらに第1詩句は  $Fa_7 - Si\flat_7 - Sidim_7 - La\flat - Dom$ 、第2詩句は  $Ladim_7 - Fam_7 / si\flat - Si\flat_7$ と連結させ原調  $Mi\flat$  に戻る（譜例9）。第3詩句はピアノ部低音が8分音符の3連順次上行する接続句の後、和音は  $Sidim_7 - Fam - Sidim_7 - Dom$ 、第4詩句は  $Dom_{7.5} - Si\flat - Mi\flat m$ （Iの準固有和音）－ $Fa_7 - Si\flat$ （属調）に一時経過転調させ、第1詩句を反復強調させ  $Si\flat m_{7.5} - Fam / si\flat - Si\flat m_7 - Mi\flat - Midim_7 - Fam / si\flat - Si\flat_7 - Mi\flat - Si\flat_7 - Mi\flat - La\flat - Solm_{7.5}$ と調性を曖昧にさせる。

譜例9



第2詩節第5詩句は突然  $Do_7$ （準固有和音VI）－ $Fam$ を反復させ、第6詩句は  $Ré_7$ （準固有和音VII）－ $Solm$ （Ⅲの調）に一時経過転調させる、第7詩句は  $Mi\flat_7 - La\flat - Mi\flat$ と連結後、同詩句を反復させシンコペーションのリズムをとめない強調させる。さらにピアノ部は低音も高音もともに  $mi\flat$  から  $si\flat$ 、 $sol$  から  $ré\flat$  へ半音階で上行させ強調させる（譜例10）。なお曲は原調  $Mi$  の主和音を3小節奏し、低音を下降させ、高音を上行させ第3音  $sol$  で不完全終止させる。

譜例10



ベルリオズ（H. Berlioz、1803－69年）はゴーチエの同じ詩（うち3詩節）を用い、歌曲集「夏の夜」*La nuit d'été*、Op. 7－1～6（1840－41年作曲）の第4第番「不在」*Absence*として名曲を残している。<sup>7</sup>

なお歌唱に際しては、旋律が長いので決して慌てずに、また劇的であるので乱暴にならずに表現させること。さらに上記のベルリオズのその曲を知っておくと歌唱の際、表現の幅がより広がり豊かな演奏を可能とさせる。

### Ⅲ. おわりに

上記Ⅱのことから、ビゼーの歌曲を分析した結果は、3部形式が多いことが分かった。解釈によってはフランスの伝統的な音楽技法を用いた歌謡あるいはドイツ・ロマン派におけるシューベルト、シューマンなどの有節および通作歌曲などを継承していると言える。しかしその形式の内部においては微妙に表情を変容させ、すでにメロディー様式を確立させたと言える。

ビゼーの歌曲の特徴は次のとおりであった。1. リズムはオスティナートを用いた軽快な民謡様式。2. 旋律は自在な変化音、フレーズの長短とフランス歌謡のシラビック様式は無論、さらに民謡によく現われる装飾的なメリスマ様式。3. 和声は変化音を用いた準固有和音、完全終止はもとより半終止や偽終止を用い音色や音の陰影を豊かにした。さらにビゼーは音楽を創造するにあたって必要と判断した場合、テキストの詩句あるいは語句をしばしば反復させ用いている。これらのことから詩の持つ陰影や情景を音楽と融合させ、繊細な表情をし得たとと言える。正しくビゼーの作品はフランスの近代歌曲 *Mélodie française* の創造者の一人と言える。

#### 引用文献

1. Frits Noske, *FRENCH SONG from BERLIOZ to DUPARC*, P. 194, Tr. by Rita Benton, Dover Pub. Inc., 1970.
  2. ビゼーの未出版曲は、*L'âme humaine est pareille au doux ciel, Le Colibri, Oh, quand je dors, Voeu,* の4曲である。Mina Curtiss, *BIZET and His World*, P. 467, Vienna House, INC. 1958.
  3. 中安ちか子、「ミルヴォア」、P. 740、フランス文学辞典、日本フランス語・フランス文学会編、白水社、1974.
  4. Ann Murray・Graham Johnson, *Songs by Bizet*, P. 12, Hyperion, CDA 66976.
  5. 小場瀬卓三、「ルニャール」、同上記載、フランス文学辞典、P. 842.
  6. 田辺貞之助、「ゴーチエ」、同上記載、フランス文学辞典、P. 222.
  7. 下山進、「ベルリオーズの歌曲」、千葉敬愛短期大学紀要、P. 48・49、No.19号、1997.
- ・楽譜は、*Georges BIZET, 20 mélodies*, no. 6832, edwin F・kalmus pub. of music, New York.
- ・詩テキストは、Yvi Jänicke・Thomas Hans, *Georges Bizet*, Orfeo, C309-931A, 1993.

#### 参考文献

- ・M・カルドース、「ビゼー」カルメンとその時代、平島正男・井上さつき共訳、音楽之友社、1989.
- ・「フランス歌曲集」、藤木義輔解説、世界音楽全集、春秋社、1955.
- ・「フランス歌曲集」、古沢淑子解説、世界音楽全集、音楽之友社、昭和48年.
- ・宮沢縦一、「ビゼー」、標準音楽辞典、音楽之友社、昭和41年.
- ・Cecilla Bartoli, *Chant d'Amour, Mélodies françaises*, London, Poel-1694, 1996.